



目標と実績

2007年度は、第五期環境行動計画の初年度にあたり、目標達成に向け重点テーマを更にランクアップし、活動を推進しました。

概要

第五期環境行動計画（2007～2009年度）の初年度2007年度は重点テーマを5つとし、よりランクアップした行動計画を策定し、積極的な環境保全活動を推進しました。重点テーマは①製品・サービスの環境価値向上②地球温暖化防止対策③ガバナンスの強化④リスクマネジメントの強化⑤環境社会貢献を掲げ、諸活動から概ね2007年度の目標を達成しております。しかしながら、一部には課題を残した案件もありますので、目標達成に向け一層努力してまいります。

主な活動実績と今後の課題

● 2007年度の主な活動実績

1. 重点活動

■重点テーマ5つの目標達成実績

- ①製品・サービスの環境価値向上・・・目標達成（環境貢献ソリューション商品の開発倍増）
- ②地球温暖化防止対策・・・一部未達（CO₂削減対策）
- ③ガバナンスの強化・・・目標達成（海外子会社FDTPの環境ISO14001認証取得）
- ④リスクマネジメントの強化・・・一部未達（下記2項「環境測定強化」参照）
- ⑤環境社会貢献・・・目標達成（中国海外植林への参画）

2. 環境測定の強化

■環境監視体制の強化

- ①土壌・地下水汚染の監視強化のため新たに「観測井戸」を設置
 - 1) 本社・東京工場 4本の観測井戸設置済（2007年12月）
 - 2) 新潟工場 7本の観測井戸設置済（2007年12月）
- ②一般環境測定の監視体制
 - ・2007年度からは1回/年から4回/年と測定回数を4倍とし、緻密な監視体制を構築

3. 環境会計

■公的環境会計の推進

- ・2007年度の上期、下期の環境会計報告の実施

● 今後の主な課題

1. 環境測定関連、再発防止対策の迅速化

■環境測定監視体制の構築で早期発見、対策の実現を可能とした。継続活動中。

2. 地球温暖化防止対策の推進計画

■エネルギーの自己調達化

- ①ソーラーシステムの新規設置
- ②風力発電設備の新規設置
- ③屋上緑化の新規設置
- ④電力省エネナビゲーションシステムの拡大

3. 社会貢献活動の更なる拡大

■ 2007年度の目標と実績

○:目標を十分に達成 △:一部未達成 ×:未達成

| 富士通フロンテック第五期環境行動計画 (2007～2009年度) | | 目標と進捗状況 | | | | |
|----------------------------------|--|------------------------------|-----------------------------------|------|------------------------------|------------------------------|
| 重点テーマ | 重点取り組み項目 | 2007年度 | | | 2008年度 | 2009年度 |
| | | 目標 | 実績 | 総合評価 | 目標 | 目標 |
| 1 製品・サービスの環境価値向上 | スーパーグリーン製品の拡大 新規開発したグリーン製品を対象に、環境トップ要素を持つスーパーグリーン製品を2009年度末までに20%以上とする | 新規開発製品10%以上 | 新規開発製品19% | ○ | 新規開発製品20%以上 | 新規開発製品アベレージ20%以上 |
| | 環境効率ファクターの達成 新規開発したグリーン製品を対象に、2005年度製品と比較して環境効率ファクター「1.2」を2009年度末までに達成する | 新規開発製品「1.1」達成 | 新規開発製品「1.1」達成※1 | ○ | 新規開発製品「1.2」達成 | 新規開発製品アベレージ「1.2」達成 |
| | 環境ソリューションの拡大 2009年度末までに環境負荷低減を向上する環境貢献・配慮ソリューションを年3件以上提供する | 環境貢献・配慮ソリューション3件以上 | 環境貢献・配慮ソリューション6件 | ○ | 環境貢献・配慮ソリューション3件以上 | 環境貢献・配慮ソリューション3件以上 |
| | エネルギー消費CO ₂ 削減 既存ビジネスにおけるエネルギー消費CO ₂ 排出量を2010年度末までに1990年度実績比8%削減する | エネルギー消費CO ₂ 6%削減 | エネルギー消費CO ₂ 8%削減 | ○ | エネルギー消費CO ₂ 6%削減 | エネルギー消費CO ₂ 7%削減 |
| | 物流・輸送CO ₂ 削減 物流・輸送CO ₂ 排出量を2010年度末までに2000年度実績比10%削減する | 物流・輸送CO ₂ 排出量7%削減 | 物流・輸送CO ₂ 排出量10%削減 | ○ | 物流・輸送CO ₂ 排出量8%削減 | 物流・輸送CO ₂ 排出量9%削減 |
| 2 地球温暖化対策 | グリーンファクトリー/グリーンオフィス制度(※)の適用 環境活動の全体的なレベルアップを図り2009年度末までに達成レベル★★以上とする ※富士通グループ独自で規定する環境配慮レベルの総合評価制度 | 達成レベル★以上 | グリーンファクトリー★なし グリーンオフィス★★(各事業所) | × | 達成レベル★★以上 | 達成レベル★★以上 |
| | VOC削減 VOC排出量を2009年度末までに2000年度実績比69%削減する | VOC排出量35%削減 | VOC排出量68%削減 | ○ | VOC排出量70%削減 | VOC排出量69%削減 |
| | 廃棄物削減 廃棄物発生量を2009年度末までに2005年度実績比3%削減する | 廃棄物発生量1%削減 | 廃棄物発生量20%増加 | × | 廃棄物発生量2%削減 | 廃棄物発生量3%削減 |
| | 本業パフォーマンス向上 EMSの質の向上により本来業務における環境活動を強化し、全部門にて本来業務の環境目的・目標を設定する | 目標達成率100% | 目標達成率103% | ○ | 目標達成率100% | 目標達成率100% |
| | グローバル統合EMS推進 EMSに基づく環境経営の枠組みを2009年度末までに海外グループ会社へ拡大する | FDTPのグローバル統合認証取得 | FDTPのグローバル統合認証取得実現 | ○ | FKM(韓国)のEMS構築支援推進 | FKM(韓国)のグローバル統合認証取得 |
| 3 ガバナンスの強化 | グリーン調達活動(※)の推進 お取引先のEMSレベルアップを推進し2009年度末までにレベルIIを100%にする ※富士通グループ独自で規定するグリーン調達基準 | お取引先のEMSレベルII60% | お取引先のEMSレベルII60% | ○ | お取引先のEMSレベルII85% | お取引先のEMSレベルII100% |
| | 環境コンプライアンス徹底 環境法にかかわるコンプライアンスを徹底する | 法基準値逸脱0件 | 法基準値逸脱2件 | × | 法基準値逸脱0件 | 法基準値逸脱0件 |
| | 環境社会貢献活動推進 環境社会貢献活動を社員一人ひとりに展開し、年6件以上実施する | 環境社会貢献活動6件以上 | 環境社会貢献活動6件 | ○ | 環境社会貢献活動6件以上 | 環境社会貢献活動6件以上 |
| 4 リスクマネジメントの強化 | 環境コミュニケーション推進 環境情報を年1回以上開示する | 環境経営報告書の発行 | 環境経営報告書の発行 | ○ | 環境経営報告書の発行 | 環境経営報告書の発行 |
| | 環境コミュニケーション推進 環境情報を年1回以上開示する | 環境経営報告書の発行 | 環境経営報告書の発行 | ○ | 環境経営報告書の発行 | 環境経営報告書の発行 |
| 5 環境社会貢献 | 環境社会貢献活動推進 環境社会貢献活動を社員一人ひとりに展開し、年6件以上実施する | 環境社会貢献活動6件以上 | 環境社会貢献活動6件 | ○ | 環境社会貢献活動6件以上 | 環境社会貢献活動6件以上 |
| | 環境コミュニケーション推進 環境情報を年1回以上開示する | 環境経営報告書の発行 | 環境経営報告書の発行 | ○ | 環境経営報告書の発行 | 環境経営報告書の発行 |

※1 年度末の閉発完了前の数値。

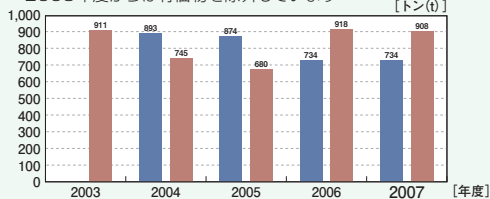
パフォーマンスの推移

過去7年間における各項目削減へ向けての当社の取り組みを開示します。
(注) 目標を設定していない年度については実績のみ掲載。

■ 目標 ■ 実績

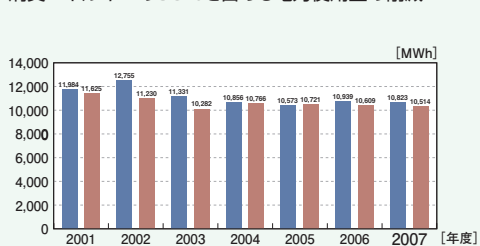
1 廃棄物総発生量の推移

廃棄物総発生量の削減
・2007年度までは、ダンボールなどの有価物を含んで計上、2008年度からは有価物を除外しています



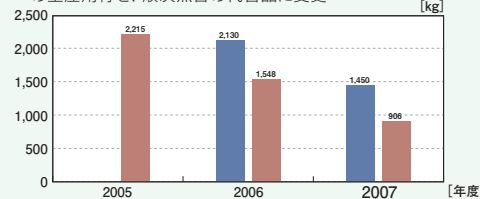
2 電力使用量の推移

消費エネルギーの98%を占める電力使用量の削減



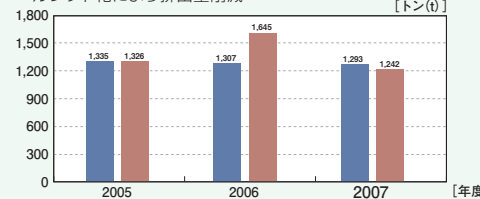
3 化学物質排出量 (VOC) の推移

指定化学物質排出量の削減
・各工程(主に製造工程)で使用する清掃剤、接着剤などの生産材を、順次無害の代替品に変更



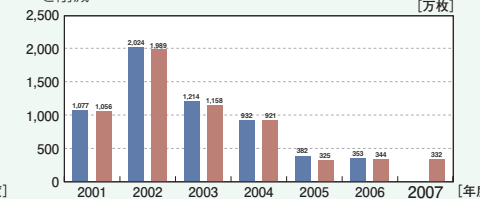
4 物流・輸送CO₂排出量の推移

輸送CO₂排出量の削減
・海外工場からドロップシップ化、積載効率の向上、モーダルシフト化により排出量を削減



5 用紙購入量の推移 (数値は新潟工場のみ)

用紙購入量の削減
・Webシステム導入や電子媒体化推進により、用紙使用量を削減



■ 環境パフォーマンスデータ (2007年度)

| 拠点 | インプット | | | | | | | 特定化学物質 使用量 [kg] |
|-----------|-----------|--------|--------|--------|-----------|--------|--------|--------------------|
| | エネルギー使用量 | | | | 水使用量 [t] | | | |
| | 購入電力[MWh] | 灯油 [k] | 軽油 [k] | LPG[t] | 都市ガス [千m] | 水道水 | 地下水 | |
| 本社・東京 | 4,153 | — | 0.1 | 19.3 | — | 15,273 | — | — |
| 新潟 | 6,874 | 3.8 | — | 13.2 | 5.1 | 23,491 | 14,723 | 914.2 |
| 大宮 SC | 705 | — | — | — | — | — | — | — |
| FJFS (前橋) | 1,498 | — | — | — | — | 5,331 | — | — |
| 合計 | 13,230 | 3.8 | 0.1 | 32.5 | 5.1 | 44,095 | 14,723 | 914.2 |

| 拠点 | アウトプット | | | | | | | | |
|-----------|--|-----|-----|------|--------------------|------------|---------|------------|-----------|
| | エネルギー消費に伴うCO ₂ 排出量 [t-CO ₂] | | | | 特定化学物質 排出量 [kg] | 廃棄物発生量 [t] | | | |
| | 購入電力 | 灯油 | 軽油 | LPG | | 都市ガス | 排水量 [t] | マテリアルリサイクル | サーマルリサイクル |
| 本社・東京 | 1,628.4 | — | 0.2 | 56.7 | — | 15,273 | 34.0 | 61.0 | — |
| 新潟 | 2,797.7 | 9.6 | — | 38.9 | 12.0 | 38,214 | 622.8 | 190.9 | — |
| 大宮 SC | 287.1 | — | — | — | — | — | 7.9 | — | — |
| FJFS (前橋) | 609.7 | — | — | — | — | 5,331 | 26.4 | — | — |
| 合計 | 5,323.0 | 9.6 | 0.2 | 95.6 | 12.0 | 58,818 | 691.1 | 251.9 | — |

小数点第二位四捨五入

■ 環境パフォーマンスデータ (法規制順守状況) (2007年度)

| 新潟工場 - 水質 | | | | 単位: [mg/l] |
|------------------|-----------------------|----------|----------|------------|
| 項目 | 測定値 | 法又は条例規制値 | 自主管理基準値 | |
| 水素イオン濃度 (pH) | 3.5～8.9 ^{※1} | 5.8～8.6 | 5.9～8.5 | |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) | 0.5～41 | 60 | 条例基準値と同じ | |
| 浮遊物質 (SS) | 0～49 | 90 | 72 | |
| ほう素及びその化合物 | <1.0 | 10 | 10 | |
| ふっ素及びその化合物 | <0.8 | 8 | 8 | |

| 新潟工場 - 土壌・地下水 | | | | 単位: [mg/l] |
|-----------------|-----------------------|----------|---------|------------|
| 項目 | 測定値 | 法又は条例規制値 | 自主管理基準値 | |
| 鉛及びその化合物 (地下水) | 0～0.002 | 0.01 | 0.005 | |
| 六価クロム化合物 (地下水) | <0.01 | 0.05 | 0.025 | |
| 砒素及びその化合物 (地下水) | 0～0.035 ^{※2} | 0.01 | 法規制値と同じ | |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.002 | 0.02 | 法規制値と同じ | |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | <0.004 | 0.04 | 法規制値と同じ | |
| トリクロロエチレン | <0.003 | 0.03 | 0.015 | |

(注) 2007年度より四半期毎の環境測定を開始。測定値は最小値～最大値を示す。
 ※1 工場排水 (池及び浄化槽排水) で pH が法規制値を一時的に超過しましたが、早期に是正対策を完了し、法規制値を順守しています。
 ※2 【原因】 自然的原因 (河川および植物連根などの影響による自然的原因) → 【対策】 自然的原因として、上位組織として行政へ報告、並びに当社公開 HP にて情報公開しております。

| 本社・東京工場 - 水質 (下水) | | | | 単位: [mg/l] |
|-------------------|---------|---------|---------|------------|
| 項目 | 測定値 | 法規制値 | 自主管理基準値 | |
| 水素イオン濃度 (pH) | 7.0～7.6 | 5.7～8.7 | 6.0～8.4 | |
| 生物化学的酸素要求量 (BOD) | 44～120 | 300 | 202 | |
| 浮遊物質 (SS) | 24～180 | 300 | 202 | |
| 鉛及びその化合物 | <0.057 | 0.1 | 0.064 | |
| 六価クロム化合物 | <0.05 | 0.5 | 0.28 | |

| 本社・東京工場 - 土壌・地下水 | | | | 単位: [mg/l] |
|------------------|--------|------|---------|------------|
| 項目 | 測定値 | 法規制値 | 自主管理基準値 | |
| 鉛及びその化合物 (地下水) | <0.005 | 0.01 | 0.006 | |
| 六価クロム化合物 (地下水) | <0.01 | 0.05 | 0.03 | |
| 砒素及びその化合物 (地下水) | <0.005 | 0.01 | 0.007 | |
| 1,1-ジクロロエチレン | <0.002 | 0.02 | 0.011 | |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | <0.004 | 0.04 | 0.022 | |
| トリクロロエチレン | <0.003 | 0.03 | 0.017 | |